

July 24, 2019

【前日の為替概況】ドル円、3日続伸 米中通商協議の進展期待で強含む

23日のニューヨーク外国為替市場でドル円は3日続伸。終値は108.23円と前営業日NY終値(107.87円)と比べて36銭程度のドル高水準だった。トランプ米大統領と与野党の議会指導部が前日に、今後2年間の連邦政府の歳出と債務の大枠について合意したことから、全般ドル買いが先行。米国株相場や米長期金利の上昇に伴う買いも入り、一時108.29円と日通し高値を付けた。ただ、17日の高値108.33円や16日の高値108.38円がレジスタンスとして意識されると伸び悩んだ。23時発表の6月米中古住宅販売件数と7月米リッチモンド連銀製造業景気指数が予想より弱い内容となったことも相場の重しとなり、108.03円付近まで下押しする場面があった。

もっとも、「ライトハイザー米通商代表部(USTR)代表やムニューシン米財務長官を含む米通商交渉団は、来週29日に訪中し中国側と対面で協議する」との一部報道が伝わると、米中通商協議の進展期待で米国株が上げ幅を拡大。ドル円にも買い戻しが入り再び強含む。

ユーロドルは3日続落。終値は1.1152ドルと前営業日NY終値(1.1209ドル)と比べて0.0057ドル程度のユーロ安水準だった。米連邦政府の債務上限の適用延期などを手掛かりにユーロ売り・ドル買いが先行。25日の欧州中央銀行(ECB)理事会を前に利下げ観測が高まると、ユーロ売り・ドル買いが活発化した。サポートとして意識されていた6月18日安値の1.1181ドルを下抜けて一時1.1146ドルと5月31日以来の安値を付けた。ユーロ円は反落。終値は120.69円と前日NY終値(120.91円)と比べて22銭程度のユーロ安水準。ECBによる金融緩和への思惑からユーロ全面安となった流れに沿って一時120.50円と1月3日のフラッシュクラッシュ以来の安値を更新した。ただ、引けにかけてはドル円や米国株の上昇につれた買いが入ったため下げ渋った。

ポンドドルは欧州時間に一時1.2418ドルまで下落したものの、NY市場に限れば1.24ドル台半ばでのみみ合いに終始した。英与党・保守党党首選で欧州連合(EU)離脱強硬派のジョンソン前外相が新党首に選出され、次期首相に決まったため、経済に混乱をもたらす「合意なき離脱」のリスクが高まった。ただ、事前にジョンソン氏勝利を織り込む形でポンド安が進んでいたため、ひとまず相場は落ち着いている。

【本日の東京為替見通し】実務者協議の日米通商交渉に注目、欧州通貨は動きやすい

本日の東京市場のドル円は、108円台前半でのレンジ取引か。108.00円の極めて大きいオプションは、本日のNYカットでかなりの部分が満期を迎える予定となっていることで、108円前後では神経質な値動きになることが予想される。

ドル円で注目をしなくてはならないのは、本日から26日までワシントンで日米通商交渉の実務者協議が開始されること。日本側は環太平洋経済連携協定(TPP)など対策本部の渋谷政策調整統括官や、外務省・財務省・農林水産省・経済産業省の担当者が出席する予定になっている。特に為替市場で警戒が必要なのは、為替条項に関する合意だ。トランプ米大統領がこの数カ月、他国の通貨安に対してたびたび苦言を述べていることもあり、日本に対しても圧力がかかってくると思われる。トランプ大統領は参議院選挙が終わるまで、日本への圧力をかける猶予を与えていたことを考えると、日本側は既にある程度の譲歩を約束している可能性もある。

7月30-31日の米連邦公開市場委員会(FOMC)の前に行われる29-30日の日銀の金融政策決定会合では、フォワードガイダンスの想定期間などを変更するのではないかとの観測も出てきている。しかし、上記のようにトランプ大統領が他国の低金利およびそれによる通貨安に対して苦言を述べていることで、日銀の動きは限られそうだ。

ドル円以外では、欧州通貨の動きに注意したい。本日は仏・独・ユーロ圏の製造業やサービス業の購買担当者景気指数(PMI)速報値が発表される。最近ではPMIの結果で為替市場が動くことが多いことで、本日もPMIの結果には注目したい。特にここ最近のユーロドルは上値が重いことで、明日のECB理事会を控え、悪い結果となった場合は大きく反応することになりそうだ。

また昨日、英保守党の党首になったジョンソン前外相が、本日正式に第77代英首相に就任する予定になっている。本日は初めて首相官邸のダウニング街10番地に入る前に演説を行い、その後閣僚指名などが行われる予定となっている。明日は議会でブレグジットの戦略について発表し、議員からの質疑応答も行われることで、発言や閣僚指名によりポンドは乱高下しそうだ。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

○14:00 ◇ 5 月景気動向指数改定値

<海外>

○15:45 ◇ 7 月仏企業景況感指数（予想：106）

○16:15 ◎ 7 月仏製造業購買担当者景気指数（PMI）速報値（予想：51.6）

○16:15 ◎ 7 月仏サービス部門 PMI 速報値（予想：52.6）

○16:30 ◎ 7 月独製造業 PMI 速報値（予想：45.2）

○16:30 ◎ 7 月独サービス部門 PMI 速報値（予想：55.3）

○17:00 ◎ 7 月ユーロ圏製造業 PMI 速報値（予想：47.6）

○17:00 ◎ 7 月ユーロ圏サービス部門 PMI 速報値（予想：53.3）

○17:00 ◇ 6 月ユーロ圏マネーサプライ M3（予想：前年比 4.7%）

○17:00 ◎ 6 月南アフリカ消費者物価指数（CPI、予想：前月比 0.3%/前年比 4.4%）

○20:00 ◇ MBA 住宅ローン申請指数

○22:45 ◎ 7 月米製造業 PMI 速報値（予想：51.0）

○22:45 ◎ 7 月米サービス部門 PMI 速報値（予想：51.7）

○22:45 ◎ 7 月米総合 PMI 速報値

○23:00 ☆ 6 月米新築住宅販売件数（予想：前月比 6.0%/66 万件）

○23:30 ◇ EIA 週間在庫統計

○25 日 02:00 ◎ 米財務省、5 年債入札

○ボリス・ジョンソン氏が英首相に就任

○欧州連合（EU）財務相理事会（ブリュッセル）。

25 日

○08:50 ◇ 6 月企業向けサービス価格指数

○08:50 ◇ 対外対内証券売買契約等の状況（週次・報告機関ベース）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

【前日までの要人発言】

23日 08:04 ケント豪準備銀行(RBA)総裁補佐
「最近の利下げがなければ、豪ドルは高くなっていたかもしれない」
「世界的な金融緩和は依然として豪州にはポジティブ」

23日 16:06 ソーダーズ英 MPC(金融政策委員会)委員
「合意なき離脱ならポンドは一段と下落」
「英経済は弱い」
「利上げの必要を示唆する予想に中銀は縛られていない」

23日 16:27 格付け会社フィッチ・レーティングス
「シンガポール金融通貨庁(MAS)は短期的にSGD(シンガポールドル)安にするため緩和する可能性」

23日 17:30 ムボウェニ南アフリカ財務相
「国営電力会社エスコムは財政構造にとって最大のリスク」
「エスコムは現時点で財政上、維持できない状態」
「エスコムへの融資は借入必要額を大幅に引き上げる可能性」
「税収減に関して借り入れ計画を修正する可能性」
「南アフリカの対GDP比債務は受け入れられない水準」

23日 17:55 易綱中国人民銀行(中央銀行)総裁
「現在の金利は妥当」
「金利決定は中国の状況に基づいている」
「インフレトレンドは穏やか」

23日 20:12 ジョンソン新英保守党党首
「我々は10月31日にEU(欧州連合)を去る」
「我々は決して課題に萎縮しない、できることを知っている」

23日 20:18 バルニエ英 EU 離脱・欧州委員会首席交渉官
「ジョンソン新英首相との建設的な取り組みを楽しみにしている」
「秩序あるブレグジットに向かって円滑に進める用意がある」

23日 20:41 米格付け会社ムーディーズ・インベスターズ・サービス
「合意なきブレグジットのリスクは増大した」

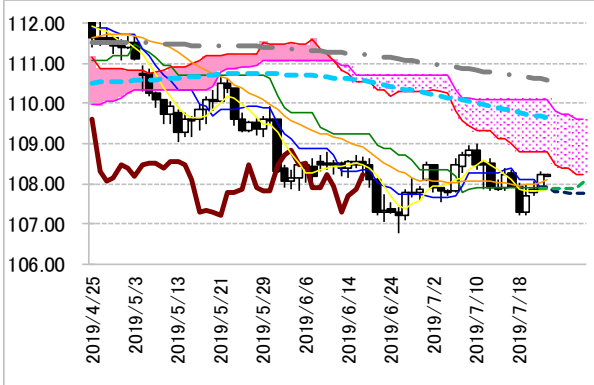
23日 20:50 トランプ米大統領
「ボリス・ジョンソン、新首相就任おめでとう。彼は偉大になるだろう」

23日 21:23 ホールデン英 MPC 委員
「金利据え置きを維持する強い根拠がある」
「緩和的な政策を検討することには非常に慎重」

23日 22:19
「英金融政策は柔軟、そして俊敏であるべき」
「ブレグジットのために、英の金融政策は米やユーロ圏とは異なる」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕



<ドル円＝日柄経過を味方に転換線の抵抗こなす>

陰線引け。日柄の経過とともに低下する一目均衡表・転換線を上回り、時間を味方にする格好で抵抗を1つこなし。一時108.29円と、先週17日以来の水準で推移した。

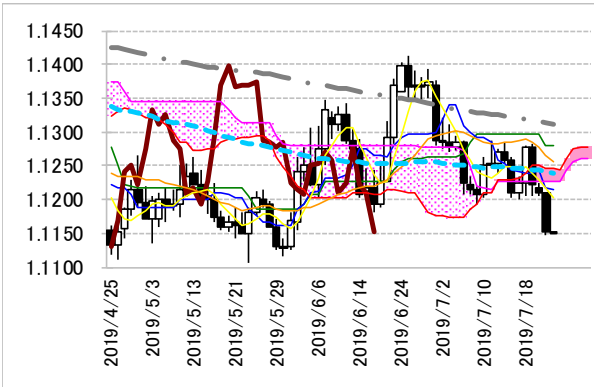
上げた転換線はまだ低下が続く見込み。抵抗から、磐石な下支えの水準へ転じるか確信しにくい。だが、底打ちから今後は上昇へ向かう公算の一目・基準線付近から下では底堅さを示しそう。まず次の上値の節目16日高値108.38円の攻略だが、目前に迫った同水準をこなすのはそう難しくみえない。雲の下限を試すことになるか。

レジスタンス2 109.42(6/25-7/10 上昇幅によるN計算値)

レジスタンス1 108.79(日足一目均衡表・雲の下限)

前日終値 108.23

サポート1 107.70(7/22 安値)



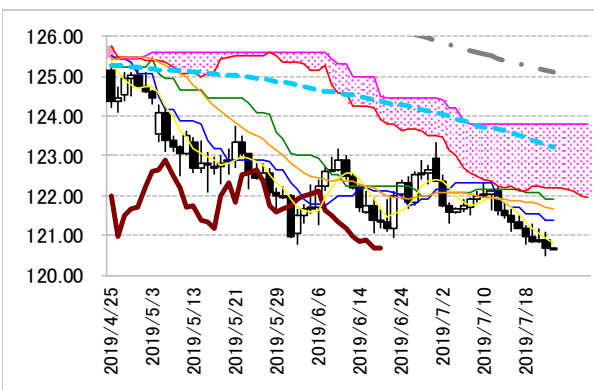
<ユーロドル＝雲の中から低下した5日線などが戻り抑える>

陰線引け。一目均衡表・雲を下回る売り示唆の水準で下値不安が強い状態のなか5月31日以来、約2カ月ぶりの安値1.1146ドルまで下落幅を広げた。一目・遅行スパンも、同指標付近のローソク足付近の水準を下放れ、売り示唆のサインが、さらに1つ明確化した。雲の中にあった一目・転換線や5日移動平均線もさらに低下。戻りを抑えそう。年初来安値更新を意識した展開か。

レジスタンス1 1.1202(5日移動平均線)

前日終値 1.1152

サポート1 1.1076(2017/5/18 安値)



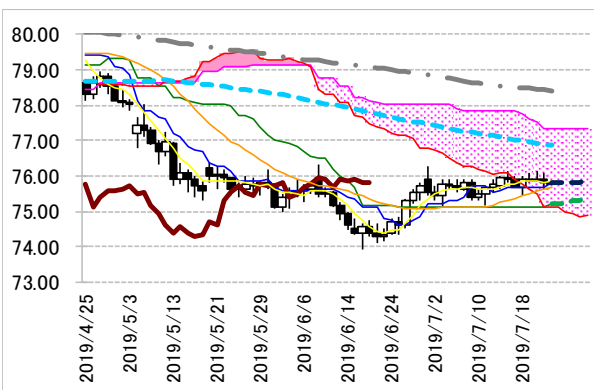
<ユーロ円＝ここからは分岐点だった120.78円付近が重そう>

陰線引け。目先の分岐点だった6月3日や先週18日につけた120.78円を下抜けて下落が進んだ。一時120.50円と、フラッシュクラッシュで年初来安値118.71円をつけて以来の水準でさえない推移が続いている。ここからは前述の120.78円付近からの上値が重そう。下値を広げていく展開を予想する。

レジスタンス1 121.17(7/22 高値)

前日終値 120.69

サポート1 120.17(ピボット・サポート2)



<豪ドル円＝上昇中の転換・基準線など支えに底堅い推移へ>

小陰線引け。一目均衡表雲の中で大きな動きになりにくい。底堅さを維持している。一目・転換線が75.81円へじわりと水準を上げており、目先のすう勢を示す5日移動平均線も付近で小幅に上下しつつも上昇傾向。相場の追随を想定する。下値の一目・基準線も上昇中でサポートとなり、底堅い推移が続くそう。

レジスタンス1 76.29(7/1 高値)

前日終値 75.82

サポート1 75.21(日足一目均衡表・基準線)

